

— どうして遊育の推進をしよう？ —

遊育自体は2018年頃から着目して
いました。それは、児童館に行かないと
友達と遊べない状況^{※2}や休日にゲームを
して過ごすというアンケート結果^{※2}が要
因にあって。決して悪い訳ではないです
が「外遊びを選択する機会が減っている」
などの現状をどうにかしないとけない
と思い遊育の推進を目指しました。そう
考えていると、北海道胆振東部地震が起
きて。子どもと保護者の心のケアに、子
どもの遊び場や自己表現をする場が必要
だという機運が加速しました。(三上)



— 震災が契機に。安平町の遊育はど ういう始まりを？ —

自分たちが遊びに対する理解を深める
努力をするのはもちろんですが、まず
は、他の地域での経験を持つ人材を探し
ました。そんな中で縁があったのが鈴木

由夢さんで2020年4月から加わって
貰っています。遊育を専門的に推進して
いくスタッフなので、とても心強い存在
です。(三上)

— どうして安平町を選んだのか？ —

安平町に来る前は、島根県の離島にい
ました。そこで、地域全体で子どもを育
てるようなコミュニケーション運営に携わり、
人のつながりの中で子どもが育つ環境の
重要性を感じていました。その中で、震
災を経験した安平町で遊びを軸とした環
境の整備を推進していくと知り「これま
で培った経験を生かすことができるので
はないか」と思い応募したのがキッカケ
です。(鈴木)

— これまでにどんな取り組みを？ —

着任時は、新型コロナウイルス感染症
がまん延し始めた頃で、やりたい企画が
あってもできず、もどかしさを感じる日々
でした。それでも情勢を見つつ、ENTR
ANCEやガンケ山を中心に着任してか
らの1年半で30回以上のイベントを開催
することができました。参加者も増えて
いき、延べ1500人を超える方に参加い
ただきました。そんな参加者の中から、移
住に繋がるといふケースにも出会うこと

も。今後いろいろな遊育事業を通じ「安
平町で子育てをしたい」と思う方が増え
ると嬉しいなって思っています。(鈴木)



— これまでの遊育の活動を見て感じ ることは？ —

着任し事業を始めた頃は「もっと事前
準備があれば」と思うときもありました
が、事業を積み重ね、研修や勉強をして
他の地域の事例を学び、それを咀嚼し取
り入れていくうちに、かなり充実してき
ているなど。一職員、一父親として、子
どもたちのことを考え一生懸命模索して
くれていることは頼りになるし、何よ
り、求められている環境を作ることがで
きているかどうかは、子どもたちの笑顔
が答えかなと思っています。(三上)

— 安平町の遊育が目指すところは？ —

子どもたちが自ら遊びを創造し、まち
のいたるところから、もっと子どもの笑

い声が聞こえるようになれば良いと思
います。遊びは、知力や体力と言った認
知能力の向上にも良い影響を与えらるも
言われるので、安平町で育つ子どもたち
は、心身ともに健康で立派に成長して貰
いたい。そのためには、信念を持って遊
育の推進に携わりたいですね。(三上)

遊育は子どもだけが対象の事業ではな
くて、保護者や地域の方も一緒になって
作り上げていくという認識をもっと深め
ていければ良いなと思っています。理解
度が高まれば、孤立した子育てをなくす
ことができたり、子育てしやすいまちな
ど明るい印象につながるはず。もっ
と遊育の活動ができる場所を増やし、少
しでも多くの人が参加できる環境作りも
積極的にしていきたいです。(鈴木)

※1 学力などではなく子どもの将来や人生を
豊かにする力。探求心や協調性、想像
力、判断力などの数値化の難しい能力。

※2 早来小学校の児童の50%以上が放課後児
童クラブに登録